

生きてくれていて、よかった

二年 小笠原灯里

わたしのいえには、「ライト」という三さいのオスのヨークシャーテリアがいます。二人であかりとライトです。わたしが年長のクリスマスに、サンタさんがプレゼントしてくれました。わたしは一人っ子で、きょうだいがいなくて、ずっと思っていたので、とてもうれしかったです。ライトといっしょにキャンプに、たくさん行きました。その中で、けしてわすれられないできごとがあります。

歩いていけるところにおんせんがあり、夕方友達がかぞくと行きました。いつもなら、おとうさんとこうたいで、ライトを見ておふるに行くのですが、近くだったので灯りをつけてテントでおるすばんをしてもらいました。

おんせんを出ると外はまっくらで、「ライトがおるすばんをしているから早くかえらなきゃ」と、いそいで道をてらしながら歩きました。先にもどっていた、おとうさんとおかあさんのようすがへんです。とてもあわてています。おかあさんがなきそうな声で、「ライトがいない……。」と言いました。「えっ！どっかにいるでしょ、ふとんにもぐってるんじゃない。」とさがしましたがどこにもいません。キャンプサイトのうらは、そのまま山につながっていて、見わたすかぎりまっくらです。「ライト！ラ

イト！」とみんなで色々なところをてらして、さがしましたが見つかりません。わたしは、むねがとてもくるしくなって、いきがハーハーしてきて、

「ライトがしんじやうー!!」

と、泣きさげびました。キャンプじょうの、おきゃくさんに「ヨークシャーテリアを見ませんでしたか。」ときいて回りましたが、だれも分かりません。しばらくしておとうさんが、「ライトがいたよー」とさげびました。大人のしん長くらいのふかさのつるがたくさんからまったがけの下でこちらを見上げて「クーン、クーン」と、ふあんそうにないていました。ひき上げてケガがないか見ましたが、血も出ていないし、ほねもおれていないようでした。わたしは、「よかった!」と、ものすごくほっとしました。

ライトは、しゃべることができないので、どうしてそこにおちてしまったのか、こわかった気もちや、いたかったことなど、なにもきけません。お父さんに見つけてもらってとてもほっとしたと思います。後からテントのチャックが下までしまりきっていませんでした。そこからは、お母さんがはんせいしていました。

わたしは、このじけんで、ライトがいなくなると、こんなになさなくてむねがくるしくなみだがた

くさんでる気もちになることが、分かりました。ライトは、わたしのおとうとです。